砺波カイニョ倶楽部会報　第７８号

平成２７年４月発行　発行者　砺波カイニョ倶楽部代表幹事　柏樹直樹
事務局　天野一男建築工房内　富山県砺波市表町 14-10　電話 0763-33-6588

佐々木邸カイニョ掃除「すっきりした」

４月４日（土）午前中、倶楽部恒例の行事として佐々木邸（荒高屋）のカイニョ掃除を行った。前日の雨でスンバ中心の落葉もしめっていたが、クマ手を使いかき集め、タンカやテンゴでまわりの田に出し燃やした。約２時間余りで屋敷にたまっていた数年のスンバ等を取り除き、土にクマ手の模様が見られ、すっきりした。１６名が手際よく働き、作業は早く終わった。後、佐々木邸広間で懇談会を開催した。

×　　×　　×

佐々木邸のカイニョはスギ中心で、中低木にツバキ・サザンカ・ヒサカキ・マサキが配される。
スギ高木２８本・中木１４本が母屋、南から西面に成立。トウカイデとヒムロスギが入口右面に、その下にチンチョウゲ・マサキ・キヤラボクが入る。敷地は約１，６００㎡、砺波の平均より大きい。入っている樹種と本数は、高木（１０m以上）３種・３０本、中木（５m以上）１１種・３６本、低木９種・４７本、全部で１１３本成立。シンプルなカイニョである。

×　　×　　×

作業後、広間で懇談会をした。

主な話は次のとおり

＊スギは人が植えたものか。自然に出て育たないか？・・・・・カイニョは「人為林」
＊ケヤキとスギ、成立している時と木材にした時の特徴？
＊敷地面積を考え樹種も選ぶことは
＊佐々木邸のカイニョ・・・・・・・１５年程前、強い枝うちと間伐をした。ヒバ・サワラが入っていない。
　　ケヤキを入れるには狭い。
＊ワクノウチヅクリ・・・・・・・・地震に強いか？
＊福井地震・能登地震の体験・・・・木造作りは揺れに強かった。土蔵が潰れた。鉄筋・鉄骨は弱い。
＊竹藪は地震に強い
＊人と猿の違い・・・・・・・・・・火を使うことが出来たかどうか？
　　子供に囲炉裏体験が必要。中嶋家の囲炉裏は貴重。

×　　×　　×

「下枝や下木の整枝作業も体験したい」と。

当日、新会員の竹中昭五さん（城端）も参加。
又、活動を北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞が取材し、翌日報道した。
佐々木邸は、砺波市が借り受け管理し、砺波暮らしを体験する施設として活用している。
今回、カイニョ倶楽部が林内の大掃除を手伝ったもの。

懇談会

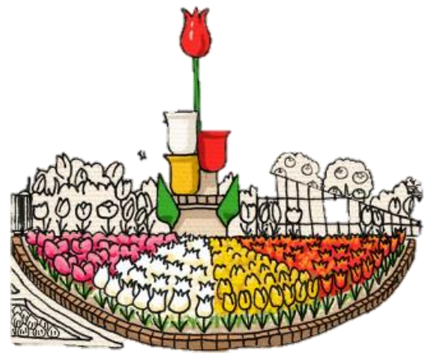
ー　総会案内　ー

□日時　　平成２７年**5月30日（土）午後1時30分**から

□場所　　**中嶋家（チューリップ公園内）**

□議題　　１．平成２６年度事業と決算報告
　　２．次年度事業計画
　　３．役員改選

□講演　　「あしたの森といのち」
　　元北日本新聞社常務・コラムニスト
　　中　島　利　明　氏



日　展
ー
富山展

□ 期　日　　平成２７年４月２５日（土）～５月１７日（日）
□ 会　場　　富山県民会館
□ 会員の氷見長徳さんが「散居村・砺波の農家」を出展
□ 観覧料　　１，０００円

安曇野での屋敷林シンポ

3月21日（土）、安曇野市穂高学習センター「みらい」館で「屋敷林フォーラム・2015」が開かれた。
野原大輔氏（砺波市教育委員会）が「砺波平野の景観は未来への財産か」と題し、基調講演をした。武蔵野市と安曇野市から現状報告、パネルデスカッション「安曇野・砺波・武蔵野から発信する屋敷林の未来」は6名のパネラーで進められた。柏樹直樹代表幹事がカイニョへの思いや行政への希望を発言した。カイニョ倶楽部から、出村忍・高畑邦男・小幡良和の各氏が聴講、夜は交流会で楽しく意見交換をした。
安曇野市のフォーラムは5回目で、第1回目に新藤正夫氏が出席されている。
10年近い活動は、安曇野の景観維持に貢献し、刺激になっている話を色々聞くことが出来た。

基調講演　「砺波平野の景観は未来への財産か」

――野原大輔氏の話の要旨――

＊安曇野へは親近感を持って参加した――大石一夫氏は、ロード自転車のチャンピオン。その方が住んでみえ、是非お会いしたい。木造阿弥陀仏如来立像はここの岩野城から庄川の勧喜寺にきた。
＊安曇野の屋敷林も砺波の屋敷林も、現代に残っていることが意義深い－水田と深く係わる。
＊生活様式の変化、人々の美意識の多様化から屋敷林の本来的機能が喪失した。
＊現代的に、屋敷林の良さを見直すことが大切。
・自然の宝庫――森林浴、現代病に対応
・豪壮な家屋――ステータスが高い、3代かけ造られた
・耐震性――ワクのうち造り
・暑さ寒さを和らげる効果
・歴史的、文化的価値――生きて使われている遺跡
＊散村の景観は砺波特有のもの。歴史的にも価値が高い。
＊対立の構図　景観保全派（凍結保存）　<対>　景観否定派（開発重視）
この対するギャップを埋める必要がある
＊米づくりを特化することが散村の景観を守る――文化のベースは米づくりにある
あらゆる文化は米づくりに帰着し、つながる
＊その切り口を考えることが大事
・チューリップ――米の裏作　・酒――沢山の酒屋があった
・夜高祭り――休んごと、虫おくり　・獅子舞――収穫のよろこび
＊砺波の屋敷林を守るために
・人口減少を喰いとめる　・維持のための直接支援
・景観まちづくり――まわりからの支援　・都会の30代の女性の意見をきく
・子供の教育――社会科副読本の活用　・ライフスタイルブック――4冊作成発行した

＊砺波の良さや力を出し合う――「なんかある」土地だ
・大門素麺ツアー　・農家レストラン
＊複眼的にみること――未来を見据えた総力戦を
散村は財産――持続可能なものを生し、一つでも一歩でも動くことが大事

南穂高重柳・古民家の前で　左から出村・柏樹・小幡・高畑

旧家のカイニョ
安曇野は散居村ではなく道路沿いに家がある

参加した4人の感想

小 幡　良 和氏
・市民の参加を促すことに努力し、活動やシンポの内容を広めるとよい。
・屋敷林に対する価値が薄れていることは、よく　似ている。（砺波と変わらない）
・内容のわからない人に宣伝すること――子供にしっかりカイニョのことを教える。
・安曇野という地名が良い。風景は最高。平地と山とカイニョのある集落は、心を癒す風土だ。

高 畑　邦 男氏
・やっていることは変わらない。木の面倒をみることを心とする人を増やすことだ。
・屋敷林とつき合う気持が大事――助成金だけでは　まかなえない。
・会場で耳の不自由な人のためのボード表示手伝い等、素晴らしい配慮だった。

出 村　忍氏
・「散居とカイニョ」「集村と屋敷林」「都市の緑」の３つの交流は意味深く感じた。
都市の緑は、大変な経費がかけられている。
・屋敷林の案内をしてもらったが、すごい古民家もあり、各家の樹木には手がかけられていた。
常念岳を中心にした真っ白な山並みが印象に残った。

柏 樹　直 樹氏
・安曇野が中心になって砺波と武蔵野をつなげた交流で、屋敷林をテーマに５回も開催していることはすごいこと。子供に緑の存在と意義を伝える学習のことが強調された。
・砺波市が、この屋敷林シンポに加わっていないことは残念だ。散居村サミットに加わりながら中心をなす屋敷林テーマから逃げているのは、いかがなものか。
第１回に砺波散村研から参加して以降、全く交流なしである。カイニョ倶楽部のような団体が参加するのだから、市としてもっと前向きに考えてもらいたい。